

発 刊 に 寄 せ て

■南信州地域の農業

当地域は、山間傾斜地が多く 1 経営体当たりの経営耕地面積は81aで県平均の148aに比べ狭いものの、温暖な気候に恵まれ標高差や地勢を活かした多品目の果樹、野菜、花き、きのこが栽培されているほか、肉用牛、養豚等の畜産も盛んです。

特に、特産の「市田柿」は、平成 28 年に農林水産物等の地理的表示（G I）保護制度に県下で初めて登録されるとともに、1921 年から「市田柿」として販売して 100 年を経過し、輸出についても台湾をはじめ東南アジアを中心に 100 tを超えるなど、更なるブランド化を進めています。

また、地域の特性を活かし茶や多くの伝統野菜が栽培されています。特に伝統野菜については、本年度「南信州伝統野菜協議会」が設立され、P R イベントが開催されるなど、今後の発展が期待されています。

農業を取り巻く様々な課題がある中、当センターにおきましては、農業者及び関係機関・団体の皆様と連携して、南信州らしい特徴ある農業・農村の振興に取り組んでいます。

■本年度の普及活動の取組

昨年度スタートした「第 4 期長野県食と農業農村振興計画」において、南信州地域の計画に位置付けた「担い手の確保・育成」、「競争力の強い果樹産地づくり」、「複合産地の構築」などの 6 つの重点戦略に基づき普及活動計画を策定し、農業者や関係機関・団体との連携、役割分担により活動を展開してきました。

特に地域で重要かつ緊急的に取り組むべき課題を「重点活動」に位置づけ、次の 2 課題についてプロジェクトチームを設置し取り組みました。

【重点活動】

○改・新植に係る課題解決による日本なし産地の生産力向上

当地域の果樹の基幹である日本なしの稼げる産

地の再構築を図るため、令和 4 年度に設立した「日本なし産地再生プロジェクト」と連動し、活動 3 年目の取組を推進しました。白紋羽病の簡易診断法による診断書の作成、診断書に基づく防除指導の実施や、罹病園の治療に使用する温水処理機の動画マニュアルの作成などによる改植障害の回避に取り組んだほか、重点対象農家における樹体ジョイント仕立て栽培等の巡回指導や現地研修会の開催、開園事例集の作成・配布などによる早期多収省力栽培技術導入面積の拡大に取り組みました。次年度からは、新たに「日本なしの省力樹形栽培導入による新たな担い手育成」を重点課題として、新規栽培者等に対する省力樹形の栽培指導等に取り組む予定です。

○データ活用による魅力あるきゅうり産地の振興

きゅうりは県内生産量の 5 割強を占める当地域の主要品目です。活動 1 年目となる本年度は、産地課題の明確化を図るとともに、環境モニタリングシステム導入に向け、対象者の選定やデータの活用方法を検討しました。また、企業の経営に向けた課題解決支援として、大型経営体の事例調査を行いました。

■将来を見据えて

本年度の普及活動に御理解、御支援をいただきました多くの農業者や関係機関・団体の皆様に改めて感謝申し上げます。ここに、令和 6 年度の普及活動の成果を「普及活動実績集」として取りまとめましたので、南信州地域の農業振興にご活用いただければ幸いです。

当地域はリニア中央新幹線開業や三遠南信自動車道開通が予定されており、地域を取り巻く環境が大きく変わりつつあります。今後も農業情勢の変化に対応しながら関係機関等と連携を密に普及活動に取り組んでまいります。

令和 7 年 3 月

南信州農業農村支援センター所長 小林健次